

### 3. 各都道府県のがん対策推進計画 策定状況

調査期間：2024年2月1日～23日

調査内容：

都道府県 HP のパブリックコメント募集や募集終了・結果公表のページで、がん対策推進計画(医療政策計画)の素案を公表の有無を確認、素案の中からがんのピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関する記載を抜粋しました。

結果：

調査期間中に素案の確認ができた都道府県	32 都道府県
素案の確認ができた都道府県のうち	
(1) ロジックモデルを策定している都道府県…①	17 都道府県 (53.1%)
(2) ロジックモデルを策定した都道府県(①)のうち、ロジックモデルでピアサポートやがんサロンに関する項目を設定している都道府県	14 都道府県 (82.4%)
(3) 素案でロジックモデルを策定していない都道府県(15 県)のうち、ロジックモデルを策定せず、ロジックモデル以外で数値目標を設定している都道府県	4 都道府県 (26.7%)

#### <留意点>

がんのピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関する記載のみを抜粋しており、記載を省略している部分があります。また、素案ではロジックモデルを公表しておらず、今後策定・公表を予定している都道府県もありますので、各都道府県が公表する計画の本文と併せてご確認ください。

## 1 北海道

北海道，北海道がん対策推進計画（素案） p. 37-39

### 第3章 分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### （1）相談支援、情報提供

##### <現状と課題>

- 患者同士が療養や生活について相談する患者サロンや、がんを経験した方が、がん患者に対する相談支援に参加し、がん患者の不安や悩みなどを共有するピア・サポートは、拠点病院等を中心に整備されてきていますが、拠点病院等の未整備圏域における体制の構築が課題となっています。また、ピア・サポーターの活躍を広げるため、一定程度の質を確保する必要があります。

##### <施策の方向>

##### ①相談支援について

- 患者サロンやピア・サポート等の患者・家族の支援体制について、医療関係者や道民にその有効性について周知を図るとともに、相談員やピアサポーターの質の確保に向けた施策を実施するほか、患者団体間の相互理解と連携の促進、道と患者団体との協力関係の構築に向けた施策を推進します。

##### <主な取組>

##### ①相談支援について

- 道は、拠点病院、地域の病院や患者団体等と連携し、がん患者の不安や悩みを軽減するため、身近な地域でピア・サポートが受けられる環境の整備を促進します。
- 道は、拠点病院等における患者サロンの設置の促進に取り組みます。
- 道は、国等のピア・サポーターの研修プログラム等を踏まえ、患者団体や拠点病院等と連携し、ピア・サポートや患者サロンで活動している患者や経験者の相談技術の質の向上を促進します。
- 道は、道内の患者団体の連合体である北海道がん患者連絡会の活動を支援し、患者団体間のネットワークづくりを促進します。

##### 【参考指標】

区分	現状値（R4 調査値）
がん相談支援センター設置二次医療圏数	14 圏域
患者サロン設置二次医療圏数	

（出典：地域保健課調）

## 2 青森

青森県，第四期青森県がん対策推進計画（案） p. 13-14

### 第3章 分野別施策の方向性と個別目標

#### （1）相談支援及び情報提供

#### 4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

##### ▽現状と課題

##### 【現状】

- ・がん患者への相談支援や情報提供の充実のため、ピア・サポーターの養成を推進

##### 【課題】

- ・ピア・サポーター養成のほか、ピア・サポート活動の質の担保や活用の促進が必要

##### ▽施策の方向性

○相談支援体制や情報提供等の推進

・県、市町村、医療機関、患者団体は、相談支援の一層の充実を図るため、患者団体等を活用した仕組みづくりや、ピア・サポーターの活動促進と養成に取り組みます。

### 3 岩手

岩手県保健福祉部，第4次岩手県がん対策推進計画（素案）（令和6年度～令和11年度），p.51-52, p82-91

#### 第3章 分野別施策

##### 3 がんとの共生

###### (1) 相談支援及び情報提供

###### (ア) 現状・課題

- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、ピア・サポートが有効であり、これまでがん患者・経験者との協働を進め、ピア・サポートを推進していますが、国が指摘しているように、本県でもピア・サポーターの普及が進んでいないところです。また、令和4年に見直されたがん診療連携拠点病院等の整備指針では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされたところです。

###### (イ) 施策の方向

- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者もがん患者に対する相談支援に参加することが有効であることから、相談支援やがんサロン等に関係する医療従事者等の意見を踏まえ、県内各拠点病院の相談支援センターやがんサロン等におけるピア・サポートによる支援を進めていきます。

#### 第5章 計画の目標

##### 1 本計画における全体目標及び目標年度

設定目標については、本計画の進捗状況や他の計画（健康いわて21プラン）との調和等を踏まえつつ、今後、国の検討結果が明らかになった段階において新たな目標の設定を考慮していくなど、必要に応じ、内容の見直しを行うなど弾力的に対応していきます。

##### 2 本計画における個別目標及び目標年度

###### (3) がんとの共生

個別目標名（アウトカム指標）	目標数値	目標年度
住み慣れた地域社会で療養生活ができる患者の増加（[再掲]：人口10万人当たり75歳未満年齢調整死亡率）		
住み慣れた地域社会で療養生活ができる患者の増加（がん患者の在宅死亡割合）		

分野別施策	個別目標名	目標数値	目標年度
(1) 相談支援及び情報提供	ピア・サポートの活動がある医療機関数【国はサポーターの研修内容を見直し】		
(3) 患者会等活動の充実	がんサロンで活動を行っている患者会数		
	活動の紹介が行われている患者会数（県ホームページに掲載されている団体数）		
	がんサロン設置数		

### 4 宮城

宮城県，第4期宮城県がん対策推進計画（中間案） p.69-71

## 第4章 分野別施策

### 第3節 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

#### 1 相談支援及び情報提供

##### <現状と課題>

- 患者会・サロンのオンラインによる開催や対面の活動再開
- ピア・サポーターの育成と活動支援

##### <施策の方向性>

- 病院や地域において患者会・サロン等が開催され、がん経験者からの情報提供等 が得られる体制整備
- ピア・サポーターが育成され、患者会やサロン等にて活動できる体制の整備

#### (1) 相談支援について

##### 1 現状と課題

患者の療養生活が多様化する中で、拠点病院等のがん相談支援センターが中心となって、患者やその家族等の精神心理的・社会的な悩みに対応することが求められています。

がん患者本人はもとより、その家族にも動揺・混乱が生じ、悩みや情報を共有して不安を解消するための機会が必要なことから、患者会・家族会やサロン（以下「患者会等」という。）のような場の充実が求められています。拠点病院等がん相談支援センターは、二次医療圏に1か所以上（県内8か所）設置され、自院の患者だけでなく、他院の患者や、医療機関からの相談にも対応してきました。

平成30年度患者体験調査では、相談支援センターを利用したことがあると回答した人のうち、86.9%は役に立つと回答しており、利用された方の満足度は高いが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより相談件数やサロン等の参加人数が減少していることから更なる周知が課題となっています。

患者会等の充実として、県では「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」の活動を支援してきました。新型コロナウイルス感染症の流行拡大で、多くの患者会等が休止となりましたが、加入団体が令和5（2023）年9月現在31団体となり、平成29（2017）年度の25団体から6団体増加し、同じがんの患者経験者による情報提供や体験共有ができる患者会等の重要性が浮き彫りになりました。

##### 2 取組の方向性

拠点病院等は、外来初診時からがん相談支援センター等の訪問や患者が必要とするときに繰り返し案内を行うなど、がん相談支援センターの周知及び利用を促進します。また、がん相談支援センター等は、すべてのがん患者・家族、市民が利用できる社会資源であり、施策としても重要であることから、オンライン等を活用した体制整備を図り、相談体制のアクセシビリティを向上させていきます。

県内のがん相談窓口をもつ医療機関等は、宮城県がん診療連携協議会を中心に、相談機能の充実と相談対応の質の向上を図り、患者や家族等がもつ医療や療養等に対する疑問や悩み等に関して、適切な相談支援を行えるようにします。

県は、宮城県がん診療連携協議会と連携し、患者会活動の充実を図るため、「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」の運営支援を行います。また、ピア・サポーターについて、国が作成した研修プログラムを活用して養成研修を行うとともに、ピアサポートの普及を図り、拠点病院等におけるピア・サポーターとの連携協力体制やがん教育等の外部講師派遣等の構築を推進します。

## 5 秋田

秋田県，第4期秋田県がん対策推進計画（素案） p.30-31

## 第5章 分野別の施策と個別目標

### Ⅲ がんとの共生

#### 1 相談支援及び情報提供

Ⅶ. 資料集

(1) 相談支援について

〔現状と課題〕

○同じ体験を持つ人が、がん患者の悩みや心配事に適切に対応するための知識や情報を共有し支え合うピア・サポートは重要であることから、県では、がん患者の支援活動を行う団体に対して支援を行っていますが、ピア・サポートの認知度や利用状況は低いため周知が必要です。

〈がん相談支援センター及びピア・サポートの利用状況〉

	H29年度	R2年度	R5年度
がん相談支援センターを知っており、利用したことがある患者の割合	8.3%	6.7%	7.7%
ピア・サポートを知っており、利用したことがある患者の割合	—	1.3%	1.1%

出典：秋田県健康づくり推進課調べ

〔取り組むべき施策〕

②地域で行われる相談支援の推進

○県及び拠点病院等は、がん患者がピア・サポートについて知り、希望した時に同じ体験を持つ人との交流ができるよう、ピア・サポートの活動支援を行うとともに、がん患者団体と協力してがんサロン等の活動を周知します。

(個別目標)

指標	現状値 (R5年度)	目標値
がん相談支援センターを知っており、利用したことがある患者の割合	7.7%	100%
「がんと診断されたことによる悩みは、何らかの支援によって現在は軽減された」と回答した患者の割合	73.2%	100%

出典：秋田県健康づくり推進課調べ

6 山形

山形県，第2次健康やまがた安心プラン，p.112-114

第4章 がん対策

4 分野別施策

(3) がんとの共生

① 相談支援及び情報提供

《現状と課題》

○全国的には、患者団体や医療機関等を中心として、患者やその家族が自身の経験を活かして相談等の支援を行うピアサポートの取組みが行われています。本県においても、患者やその家族の不安を軽減するため、ピアサポーターを養成し、ピアサポートを推進しています。

《施策の方向と推進主体》

施策の方向	推進主体
<p>がん患者・経験者との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん患者や家族等の交流の場の確保や活動を支援するとともに、自主的に情報提供している患者団体等の活動を促進</li> <li>○ がん患者等に支援を行っているボランティア等の受け入れの推進</li> <li>○ 県は、がん患者の不安や悩みを軽減するため、がん患者・経験者との協働を進め、ピアサポートを推進</li> </ul>	<p>県、がん診療連携拠点病院、医療機関、患者団体等</p>

## &lt;ロジックモデル&gt;

## &lt;個別目標&gt;

相談支援と情報提供
がんに関する情報提供と相談支援連携体制を整備・充実
がん診療連携拠点・指定病院の相談支援センターや県がん総合相談支援センター及びその機能について、県民に広く周知
がん患者やその家族等の交流の場を確保し、自主的に情報提供している患者団体等の活動を支援

## &lt;数値目標&gt;

相談支援と情報提供	現状値	目標値
がん相談窓口における 相談受理件数	6,831 件 (R4)	7,400 件 (R11)
がんと診断後も仕事を継続 していたがん患者の割合	61.4% (H30)	65% (R11)

## 7 福島

福島県，福島県がん対策推進計画(第四期) (案) , p.46-48

## II 各論 (分野別施策)

## 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

## (1) 相談支援及び情報提供

## ① 相談支援について

## 【現状・課題】

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県ではピア・サポート研修を行い、ピア・サポーターを養成しています。県内には患者会(10 団体)と患者支援団体(6 団体)があり、がん患者とその家族、または遺族の方々がお互いの体験を分かち合い、支え合うとともに、ホスピスケアや人生の最終段階における医療に関する研修会を開催している団体もあります。

がんピアネットワーク支援構築事業により、令和4(2022)年は、県内10 か所でピア・サポートサロンを計103 回開催し、患者、家族、医療者等551 名の参加がありました。さらにピア・サポーター養成研修を行い、令和4年(2022)年度は5名、令和5(2023)年度は7名を養成しました。

## 【目標】

精神心理・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができる。

## 【施策の方向性】

- 県は、ホームページ等によりがん患者団体やがん患者支援団体等の情報(ピア・カウンセリング等の患者支援の情報)を広く県民に周知し、必要に応じて、がん患者やその家族がこれらの団体について情報を入手できるようにするとともに、これらの団体間の情報交換等を促進します。
- 県は、がん診療連携拠点病院等に設置されているがん患者サロンの取組についてホームページ等で紹介する等の支援を行います。
- 県は、ピア・サポーターの養成を引き続き行うとともに、ピア・サポーターの質向上と医療機関との連携強化の支援をします。

## 【「第四期がん対策推進基本計画ロジックモデル」：相談支援及び情報提供】

個別施策	アウトプット指標	データソース
ピア・サポート支援に参加することが出来る	年間の体験を語り合う場(サロン)への延べ参加人数	がんピアネットワーク 構築支援事業実績
中間アウトカム	中間アウトカム指標	データソース
ピアサポーターの認知度	ピアサポートについて知っているがん患者の割合	患者体験調査

ピアサポーターの認知度	ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合（一般がん患者）	患者体験調査
-------------	--	--------

## 8 茨城

茨城県, 茨城県総合がん対策推進計画－第五次計画－（令和6（2024）年度～令和11（2029）年度）, p.112-114

各論

### Ⅲ 生活支援体制の整備

- 1 がんに関する相談支援体制の整備
- 3 現状と課題

#### （3）多様な相談支援体制の整備

がん患者やその家族の悩みは多岐にわたり、専門の相談員や医療従事者だけでは解決できない悩みもあります。そのような悩みに対応するため、がんを体験した人が、仲間として「体験を共有し、ともに考える」ことで、がん患者やその家族の生活や治療への不安などを軽減すること（ピアサポート）が必要です。

このため、県ではがん患者及びその家族への相談支援体制の充実や療養生活の質の向上を図ることを目的に、がん体験者の協力を得て、ピアサポート事業を平成20（2008）年度から開始し、現在10か所のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターで実施しています。

また、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院においては、がん患者や家族が、心の悩みや体験等を語り合うことのできる場として「患者サロン」等の設置を進めてきました。

#### 取り組むべき対策

#### （3）多様な相談支援体制の充実

##### ① ピアサポート事業の充実

県は、ピアサポート事業について、リーフレットやホームページなどを通じて、広く県民に対し周知します。また、AYA世代を含めた新たなピアサポーターの新規養成や既にピアサポーターとして活動されている方へのフォローアップについては、今後も、ハイブリッド方式等による研修会を開催し、スキルの向上に努めます。

##### ② 患者サロンの設置

県は、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院等において、がん患者や家族が心の悩みや体験等を語り合うことのできる場として、「患者サロン」等の設置を引き続き推進します。

## 9 栃木

栃木県, 栃木県がん対策推進計画（4期計画）（案）, p.32-34, p.49-50

### Ⅳ分野別の個別目標及び県の取組

#### ③ がん患者等を支えるための環境づくり

- 1 相談支援・情報提供等の推進
  - （1）相談支援・情報提供の充実

##### 【現状・課題等】

##### イ 相談支援体制の充実

- ・ 療養生活の多様化やその後の社会生活の中で、患者やその家族等の精神心理的・社会的な悩みに対応していくことが求められています。
- ・ がん患者等からの相談内容が多様化しており、相談対応に当たっては、拠点病院等及び中核病院における相談支援の質の向上、他機関との連携等が必要となってきました。

## 【今後の取組】

## イ 相談支援体制の充実

- ・ 栃木県がん診療連携協議会相談支援部会等と連携し、患者サロン等でピアサポーターによる支援が受けられる体制を整備します。

## 【モニタリング値】

項目	現状値
栃木県がんピアサポーター数	※人

※ピアサポーターは令和6年度から登録予定

出典：栃木県保健福祉部健康増進課調べ

項目	現状値 R3(2021)年
患者サロン開催数	28 回

出典：「がん診療連携拠点病院等 令和4(2022)年度現況報告」

## V 栃木県がん対策推進計画（4期計画）ロジックモデル

個別目標（目的を達成するためにクリアすべきステップ、ゴール；中間アウトカム）

Ⅲ	がん患者やその家族を支える環境が整っている		現状値	目標値
1	指標	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	42.7%(2018年)	上昇(2029年)
2	指標	がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人	74.0%(2018年)	上昇(2029年)

目的（あるべき姿；分野アウトカム）

③	がんになっても安心して暮らすことができる社会の構築		現状値	目標値
1	指標	現在自分らしい日常生活を送れていると感ずるがん患者の割合	81.0%(2018年)	上昇(2029年)

## 施策

	個別施策	指標	現状値
23	相談支援体制の充実	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	121人(2021年)
		ピアサポーター養成数	R6から登録
		患者サロン開催数	28回(2021年)

## 10 群馬

群馬県，第4期群馬県がん対策推進計画～がんに関心強い地域社会の構築を目指して～素案，p. 87-88

## 第4章 分野別施策と目標

## 3 がんとともに安心して暮らせる地域社会の構築

## (3) 相談支援／情報提供

## 目指す姿

- 患者やその家族が、置かれている状況に応じた相談支援がいつでも受けられる。
- 信頼性が高く県民に分かりやすい情報提供が行われている。

## ①相談支援

## 現状と課題

- がん患者にとって同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供、患者同士が体験を共有（ピアサポート）できる場の存在は重要です。群馬県は、群馬大学等の関係機関と協力し、ピアサポートを行うピアサポーターを養成し、その活動を支援しています。また、ピアサポーターの質の向上を維持



するため、フォローアップ研修も実施しています。

- 群馬県では、全てのがん診療連携拠点病院等で患者やその家族の交流を支援する場であるがんサロンが開催されています。

#### 取り組むべき施策

- 群馬県は、引き続き、がん分野におけるピアサポート活動の実施状況を見ながら、ピアサポーターの養成、質の向上及び活動支援に努めます。
- がん診療連携拠点病院等は、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができるよう、患者サロン等においてピアサポーターの活用を努めます。
- 群馬県、群馬県がん診療連携協議会及びがん診療連携拠点病院等は、国の検討状況を踏まえ、ICTや患者団体、社会的人材リソース等を活用した相談支援体制の整備の方策について検討します。

## 11 埼玉

パブリックコメント開始前

## 12 千葉

千葉県，第4期千葉県がん対策推進計画，p.66-68，第4期千葉県がん対策推進計画ロジックモデル（試案），p.3

### 第4章 がん対策施策の推進

がんとの共生 ～ 尊厳をもって安心して暮らせる地域共生社会の構築 ～

#### （1）相談・情報提供

##### ①相談支援の充実

〔現状と課題〕

##### ◎ 千葉県地域統括相談支援センター

千葉県がんセンター「患者総合支援センター」内に設置された「千葉県地域統括相談支援センター」では、「がん相談支援センター」と協同し、拠点病院等の相談支援機能に加え、がんに関する療養情報や、患者会、患者サロンなどの地域情報を収集し、「千葉県がんサポートブック」や、がん情報提供サイト「千葉県がん情報ちばがんナビ」による情報提供を行っています。また、「千葉県がんピア・サポーター」の養成、各拠点病院等でのピア・サポートサロンの運営など、患者の視点に立った相談支援に取り組んでいるところです。

##### ◎ 千葉県がんピア・サポーター

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士が体験を共有できる場の存在は重要です。ピア・サポーターとは、ピア（仲間）とサポーター（支援者）を合わせた言葉で、がんピア・サポーターは「がん患者等の支援を行うがん経験者」を意味します。

「千葉県がんピア・サポーター」は、県が実施する養成研修を修了し、千葉県がんセンターを始めとする拠点病院等で開催される患者相談会「ピア・サポーターズサロンちば」などで活動しています。また、県では、ピア・サポーターフォローアップ研修を開催し、千葉県がんピア・サポーターのさらなる資質の向上を図っているところです。

しかし、活動可能な千葉県がんピア・サポーターの人数は横ばいであり、ピア・サポート活動の維持・発展のためにも養成研修の回数を増やし、修了者を増員する必要があります。

##### ◎ 患者団体や患者支援団体の活動

県内では、患者団体や患者支援団体においても、患者やその家族に対する支援の役割を積極的に担ってきました。県内では「がん患者団体連絡協議会」を構成する5団体を始めとする多くの団体が、病院や地域で患者やその家族の悩みや不安への対応、分かち合いなどの活動を行っています。

また、拠点病院等では、患者・家族同士が自らの悩みや不安を語り合う「患者サロン」が開催されおり、拠点病院以外でも患者団体が主催する患者サロンが開催されている地域があります。

患者団体や患者支援団体では、がん患者やその家族及び一般県民を対象とした講演やイベント等も実施して

いますが、これらの活動に対する認知度や理解はまだ充分とはいえず、県民や各種団体、企業等にも知ってもらうための取組が必要です。

〔施策の方向〕

●がん経験者等の参画による相談支援の充実

◇ 県は、千葉県がんセンター「千葉県地域統括相談支援センター」と連携し、「千葉県がんピア・サポーター養成研修」の開催により千葉県がんピア・サポーターを増員するとともに、ピア・サポーターフォローアップ研修により、さらなる資質の向上を図ります。

◇ 県及び拠点病院等は、「ピア・サポーターズサロンちば」や患者団体によるイベント、患者サロン等について、県民の理解を深めるための周知広報を行うとともに、病院外にも千葉県がんピア・サポーター等の活躍の場を広げ、患者・家族がピア・サポートを受けられる機会の増大に努めます。

(1) 相談・情報提供

個別施策	アウトプット指標
がん経験者等の参画による相談支援の充実	ピア・サポーターズサロンちばの開催回数 ピア・サポーターズの人数

中間アウトカム	中間アウトカム指標	策定時	目標	データソース①
ピア・サポーターの活動の場の拡大	サロン開催病院数	H30年度16箇所 (対面開催) R4年度24回 (リモートサロン)	拡大する	「ピア・サポーターズサロンちば」の開催実績

13 東京

東京都がん対策推進計画（第三次改定）（案），p.106-109

第4章 分野別施策

Ⅲ がんとの共生

(3) ピア・サポート及び患者サロン

現状と課題

- ピア・サポートとは、がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う取組のことで、これを行う人をピア・サポーターといいます。
- 都は、国拠点病院、地域がん診療病院及び都拠点病院におけるピア・サポートの取組を支援しており、令和5年8月時点で、それらの病院の約半数においてピア・サポーターと連携した患者サロン等の開催や、ピア・サポーターによる個別相談会を実施しています。
- しかし、ピア・サポーターが接し方を誤ると、患者等を逆に傷つけてしまうこともあるため、各病院によるピア・サポート推進に向けて、ピア・サポーターの質の担保が求められています。
- また、がん経験者の中には、ピア・サポーターとして活動することを希望しているものの、活動の機会を持つことができない人もいます。
- AYA世代のがん患者の一定数は、経験するライフイベント等に応じたピア・サポートを必要としていますが、がん種や社会状況について多様性が高く、自分と同じ条件のピア・サポーターを探すことが難しい場合があります。
- 患者サロンは、がん患者・がん経験者など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場です。国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院や一部の区市町村等で設置しており、がん相談支援センターや患者団体等、また、患者や家族など様々な運営主体が、交流会や勉強会等を開催しています。

Ⅶ. 資料集

- しかし、新型コロナの感染拡大を受けて、患者サロンの活動が中断し、患者や家族が同じ立場の人と交流できる場が以前より少なくなっています。
- 都では、ピア・サポート及び患者サロンについて東京都がんポータルサイトで案内をしていますが、ピア・サポート及び患者サロンとも、参加・利用者が限られています。参加・利用の希望を有するものの、実際に参加・利用したことがないと回答した人にその理由を尋ねたところ、「参加方法が分からない」「どこで実施されているか分からない」との意見が多数を占めていました。

**取組の方向性**

- ①ピア・サポーターの提供推進
  - 都においてピア・サポーターの養成に取り組み、養成したピア・サポーターの情報を分かりやすい形で拠点病院等（成人・小児）に対して情報提供することなどについて検討し、質の担保と活動機会の提供の実現を図ります。
- ②患者サロンの開催支援
  - 国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院における患者サロンの開催を推進するために、都は、東京都がん診療連携協議会と連携し、好事例の共有等を行うとともに、必要な環境整備を支援します。
- ③開催情報の発信強化
  - ピア・サポート及び患者サロンの開催情報を、拠点病院等（成人・小児）と連携し、東京都がんポータルサイト上で分かりやすく発信していきます。

**【指標】**

分野別アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
精神心理的苦痛を抱えるがん患者の割合	36.8% (平成30年度)	減らす	国立がん研究センター患者体験調査 (都道府県別集計)
中間アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
病状や療養に関することについて、家族、がん相談支援センター、医療者、ピア・サポーター、患者団体等、誰かに「相談できた」と回答した患者の割合	61.0% (令和4年度)	増やす	東京都がん患者調査
患者団体等が開催するイベントについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	- (基準値なし)	減らす	東京都がん患者調査
ピア・サポートについて「受けたいと思っているが、受けたことはない」「存在を知らない」と回答した患者の割合	受けたいと思っているが、受けたことはない 14.8% 存在を知らない 45.1% (令和4年度)	減らす	東京都がん患者調査
患者サロンについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	参加したいと思っているが、参加したことはない (令和4年度)	減らす	東京都がん患者調査

14 神奈川

神奈川県, 神奈川県がん対策推進計画素案 (令和6 (2024) 年度~令和11 (2029) 年度), p.73-80, 104-107,

## 3 それぞれの立場で進めるがんと共生

## (1) がん患者及びその家族等への支援

## ①相談支援

## 【現状】

県は、県ホームページやがんサポートハンドブックにより、がん相談支援センターやピアサポート実施場所について案内しています。

## 【課題】

- がん患者やその家族が、身近な地域で必要に応じて適切に相談支援を受けられる機会をさらに確保することが必要です。

## 【施策】

◇ピアサポーターによる相談支援

- ピアサポーターは、患者会や病院が主催する患者サロンのファシリテーターとして、患者及びその家族同士の交流を深めます。
- ピアサポーターは、拠点・指定病院内や院外の施設等において、がん患者やその家族等の相談に対応します。ただし、相談内容によっては、がん相談支援センターにつなげます。

## ③がん患者団体・ピアサポーター等との連携

## 【現状】

- がん患者会やがんサロン等において、同じ病気や症状といった何らかの共通する患者体験を持つ人たちにより、お互いの悩みや不安の共有、情報交換等が行われています。
- 県は、県に登録しているがん患者会や患者サロンについて、がんサポートハンドブックや県ホームページで周知しています。・拠点病院・指定病院は、患者サロンの運営等の支援や連携を図っています。
- がん患者やその家族等が、同じような経験を持つピアサポーターに相談できる箇所が、現在県内には14カ所あります。
- 各関係団体等が自主的にピアサポーターの養成研修を行うとともに、日本癌治療学会が認定するがん医療ネットワークナビゲーター等の資格を有するがん体験者が関わることで、一定程度のピアサポーターの質が維持されています。

## 【課題】

- がん患者が自分のニーズに合った患者会に参加できるよう、がん患者会に関する情報をより入手しやすくすることが必要です。
- がん患者の選択肢を広げるため、県の登録制度について周知を図り、登録患者会の数を増やす必要があります。
- 一方、登録する患者会の質を向上するとともに、定期的に活動状況等を確認する必要があります。
- 県及び拠点・指定病院は、患者支援を充実するため、がん患者団体等との連携を強化する必要があります。
- がん患者やその家族等にピアサポーター・がん医療ネットワークナビゲーターの存在を知ってもらう必要があります。
- 県は、ピアサポーターの養成、認定及びフォローアップに取り組み、がん患者やその家族の相談の機会を増やす必要があります。
- がん患者及びその家族が、ピアサポーター等に相談できる機会を増やすために、活躍の場を広げる必要があります。

## 【施策】

◇がん患者団体等との連携

<県として>

- 県は、登録患者会を増やすため、活動している患者会に登録制度を紹介していきます。
- 県は、登録患者会を対象に定期的に活動状況等のアンケート調査を行い患者や家族等にとって有意義な情報は、県のホームページ等で紹介していきます。

<県がん診療連携協議会（相談支援部会）として>

- 相談支援部会は、拠点・指定病院の患者サロンの開催状況について情報共有し、県に対し、県のホームページやがんサポートハンドブックへ掲載する情報を提供します。

<拠点・指定病院（がん相談支援センター）として>

- ・各がん相談支援センターは、患者及びその家族等に対して、患者サロンや患者会の活動内容を病院のホームページや院内掲示等で周知していきます。
- ・拠点・指定病院は、がん患者団体等の活動場所の提供、がん患者団体等が行う講座等への講師派遣等、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいきます。

<（公財）かながわ健康財団として>

- ・（公財）かながわ健康財団は、がん患者団体等に対して、情報提供及び情報交換・情報共有の機会を提供するなど、がん患者団体等同士の連携に対する支援に取り組みます。

◇ピアサポーター等との連携

<県として>

- ・県は、県がん診療連携協議会、相談支援センター、ピアサポートに関し十分な経験を有するがん患者団体等の関係団体、ピアサポーター等と協力して、ピアサポーターの養成研修会を定期的に開催します。
- ・県は、養成研修会の修了者を認定し、相談支援センター、がん患者会等の関係団体等と連携して、認定者の活躍の場を増やしていきます。
- ・県は、がん相談支援センター、がん患者団体等の関係団体等と連携して、認定したピア・サポーターのフォローアップの方法を検討し、実践していきます。
- ・県は、県がん診療連携協議会と連携して、拠点・指定病院等の医療従事者等を対象に、ピアサポーターの必要性や活用方法を知ってもらうための研修会を開催します。
- ・県は、がん医療ネットワークナビゲーターの効果的な周知について検討を進めます。

<県がん診療連携協議会（相談支援部会）として>

- ・県がん診療連携協議会は、県と共に、県が認定したピアサポーターの活躍の場を広げるために、医療機関等に働きかけていきます。
- ・相談支援部会は、がん相談支援センターにおけるピアサポーターの役割や活躍の場の確保について検討します。
- ・相談支援部会は、各病院のピアサポーターによる相談日等を取りまとめ、情報共有し、お互いに紹介しあえる仕組みを作ります。（取りまとめた結果は、県のホームページやがんサポートハンドブック等で公表していきます。）

<がん患者団体等として>

- ・がん患者団体等は、県が実施するピアサポーターの養成研修会等の運営や周知に協力していきます。

(1) 相談・情報提供

初期アウトカム
相談支援
情報提供
がん患者団体・ピア・サポーター等との連携

中間アウトカム	データソース	計画策定時の値（データの年度）	目標値 ※1、2（令和 8～14 年度）
ピア・サポーターについて知っている患者の割合の増加	患者体験調査	—	現状より増加

## 16 富山

富山県, 富山県がん対策推進計画（令和6年度～令和11年度）（案）, p. 51-58

## 第3章 分野別施策と個別目標

## 4 がん患者の支援体制の充実

## 現状と課題

## 《がん患者の活動支援》

- 拠点病院を中心に患者会やがんサロンが設置され、特に、乳がんに関しては、「乳がん患者活動支援事業」を開催するなど、正しい知識の普及啓発や患者会間での交流を図っています。
- がんを体験した人やその家族などがピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることにより、がん患者やご家族等を支えるピア・サポーターを養成しています。

## 取組みの基本方針

（3）がん患者等の社会的な問題への対応

- 県がん総合相談支援センターや拠点病院の相談支援センター等を通じて、がん患者会の活動を支援します。
- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者による相談支援が効果的であり、ピア・サポーターの養成や活動促進のためのフォローアップを実施するなど、がん患者・経験者との協働を進めます。
- 患者会と連携したがん検診普及啓発キャンペーンの実施等を通じ、県民の患者会への理解を深めます。

## 個別目標・現状把握指標

## 【がん患者の活動支援】

指標	現状(R4)	目標値	目標期限
①がん患者の不安や悩みを軽減し支援するためのピア・サポーターの養成及びピア・サポート活動等の推進 ※県健康課調べ ・ピア・サポーター数	124名	155名	R11年度
・ピア・サポーターによる患者サロン等の開催回数	64回	増加する	
・ピア・サポーターの各種講演等への派遣回数	16回	増加する	
②ピア・サポーターの認知度の向上・ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合（※1）	32.6% (H30)	増加する	

## 17 石川

パブリックコメント開始前

## 18 福井

福井県, 【がん対策推進計画編】第4次福井県がん対策推進計画～がん予防・検診・治療日本一～, p. 55-57

## 第3章 今後のがん対策

（4）がんと共生（がんになっても安心して暮らせる社会づくり）

## ①がんに関する相談支援および情報提供

## ＜現状と課題＞

がん相談支援センターでは上記のような個別の相談に応じるほか、患者サロンの運営、患者とその家族および医療関係者などが自由に交流する場（メディカルカフェ）の開催、患者会活動の支援なども実施しています。また、県では、患者が身近な地域で気軽に相談ができるよう、がんサロンを地域で開催しています。がん患者の不安や悩みを軽減するには、同じような療養体験を持つ患者（ピアサポーター（ピア＝仲間））によ

る相談支援や情報提供など、安心して話すことのできる環境も大切であり、ピアサポート活動の充実が求められています。

<取り組むべき施策>

[相談支援]

- また、患者サロンの運営、患者とその家族および医療関係者などが自由に交流する場（メディカルカフェ）の開催、患者会活動の支援、「就職支援ナビゲーター」（公共職業安定所に設置）、「両立支援促進員」（福井産業保健総合支援センターに配置）による出張就労相談など、各拠点病院や関係団体の特色を活かした活動を継続します。
- 県は、患者が身近な地域で気軽に相談ができる相談窓口を設けるとともに、内容や時間帯などを工夫し、より多くの方が参加しやすいサロンを開催します。
- 県は、知識、技術を修得したピアサポーターが、拠点病院などのがんサロンや患者会において活動できるように、ピアサポーターの養成を行います。

<個別目標>

項目	現状値	目標値	目標年度
がん拠点病院以外でのがん「サロン」の開催数の増加	8 回/年	12 回/年	令和 11 年度 (2029 年度)
ピアサポーターの養成	-	5 人/年	令和 11 年度 (2029 年度)

19 山梨

山梨県, 山梨県がん対策推進計画（第4次）素案, p. 26-27

第4章 分野別施策と個別目標

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1) 相談支援及び情報提供

① 相談支援について

(現状・課題)

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県は、ピア・サポーターの養成研修や修了者のフォローアップ研修を開催し、ピア・サポーターの養成と質の確保を図ってきました。令和4（2022）年整備指針改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用を努めることとされました。一方で、平成30（2018）年に実施された患者体験調査では、山梨県において、ピア・サポーターについて知っていると回答したがん患者の割合は、29.0%に留まりました。

(取り組むべき施策)

県は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるため、関係機関との連携を図ります。

20 長野

長野県, 第3期信州保健医療総合計画（素案）第9編 疾病対策等, p. 433-435

Ⅳ 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができています

1 がんに対する理解が深まり、社会全体で支援を行う環境づくり

(1) がんに関する情報提供やがん相談支援センター等の相談支援体制の充実

【現状と課題】

エ 患者会等との連携（ピア・サポートの推進等）

○がん患者やその家族にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び体験共有ができる場の存在が重要です。

○また、がん患者やその家族の支援策について、患者等からの意見を踏まえ、患者会等と連携しながら検討・実施することも重要です。

○県は患者等からの意見を把握するため、がん関係会議におけるがん患者からの意見聴取や、長野県がん診療連携協議会と連携した患者会との意見交換等を実施しています。

○患者会との連携した取組の一つにピア・サポートの推進があります。

○ピア・サポートとは、同じような悩みや経験をもつ者同士（ピア）が支え合い、サポートし合うことです。仲間から支えられていると感じることによって、不安の解消や悩みの解決につながることを期待されています。

○がん診療連携拠点病院等は、患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用にも努めることとされており、ピア・サポートの取組の推進が必要です。

#### 【施策の展開】

- 県は、がん診療連携拠点病院等や患者会がある医療機関と連携し、患者会等の取組の把握、必要に応じた情報提供に努めるとともに、ピア・サポートの推進に向けた取組を検討・実施します。

## 21 岐阜

岐阜県健康福祉部保健医療課, 第4次岐阜県がん対策推進計画（素案）令和6年度～令和11年度, p. 39-40,

### 第6 分野別施策及び個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援及び情報提供

がんに関する相談については、拠点病院のがん相談支援センターが中心となって、患者や家族等のがんに対する不安や疑問に対応してきました。また、拠点病院や地域の中核医療機関は、がん患者サロンを設置し、同じような経験を持つがん患者・経験者、家族等による支援（ピアサポート）を実施しています。

がん患者サロンについては、同じような経験を持つ人による相談支援や情報提供、患者同士の体験共有ができる場が全圏域に設置されました。令和4（2022）年整備指針改定では、拠点病院が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用にも努めることとされ、今後は、更なるピア・サポーター等による支援の周知を進めるとともに、相談体制の充実を図ります。

##### 1) 個別目標

がん相談支援センターの相談件数の増加

##### 2) 政策目標

- 多様化・複雑化する相談支援のニーズに対応できる質の高い相談支援体制を強化する。
- 必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができる情報提供体制を推進する。
- がん情報センターを維持し機能を強化する

##### 3) 具体的施策

相談支援体制の充実

- ⑥がん患者サロンの周知や活動の啓発〔保健医療課・拠点病院・患者団体〕
- ⑦ピアサポーターの養成と継続した活用の推進〔保健医療課・拠点病院〕

## 22 静岡

パブリックコメント終了

## 23 愛知

愛知県, 第4期愛知県がん対策推進計画（案）, p. 47-48,



## 第4章 分野別施策と個別目標

### 3 がん患者や家族が安心して暮らせるための環境整備

#### (1) 相談支援及び情報提供

##### ア 相談支援について

###### (現状・課題)

また、がん患者にとって、家族や親族、友人、医療従事者などには話しづらいことも、同じ立場の人だからこそ言えることがあり、がん体験者など同じ悩みを体験した仲間（＝ピア）による相談支援や情報提供、体験共有は支えとなります。ピア・サポートでは、がんの体験者が自らの経験やその経験から得た学びをもとに、同じ立場の人の悩みや不安な気持ちを理解し、共感しながら話を傾聴したり、ともに考えたりします。がん診療連携拠点病院等では、患者団体と連携して心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けています。また、県では、県内どこに住んでいてもピア・サポートを受けられるよう電話相談を実施しています。こうしたピア・サポート活動を推進していくため、県ではピア・サポート活動の周知とピア・サポーターの養成をしてきました。引き続き、ピア・サポーターによる支援を身近なところで受けられるよう取組を進めていく必要があります。

##### 【取組の方向性】

- ③がん診療連携拠点病院等は、ピア・サポートを活用し、がん患者や家族の多様なニーズに対応できるよう相談支援の充実に努めます。
- ④多くのがん患者や家族が利用できるようピア・サポート活動の周知に努めるとともに、ピア・サポーターの質の向上を図り、相談支援の充実に推進します。

## 24 三重

三重県，第5期三重県がん対策推進計画中間案，p. 47-48

## 第5章 分野別施策の取組

### 3 がんとの共生

#### (2) 相談支援および情報提供の充実

##### (現状と課題)

- 拠点病院等のがん相談支援センターや三重県がん相談支援センターでは、ボランティアや医療機関、行政等との連携により、病院内外において患者とその家族が集い、情報交換や交流を行う場としてのがんサロンの運営を行っています。
- 現在治療を受けているがん患者やその家族だけでなく、がんで大切な人を亡くした遺族への支援も求められています。これに対して、県内でも一部の地域では、遺族を対象としたグリーフ（悲嘆）ケアサロンを開催していますが、さらに充実させていくことが必要です。

##### (取組内容)

###### (ピア・サポート)

○がん患者にとって、同じような経験を持つ方による相談支援や情報提供および患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、がん経験者との連携を進め、ピア・サポートの取組を進めます。（拠点病院等、関係機関、県）

###### (がん患者の遺族向けのグリーフケア)

○三重県がん相談支援センターにおいて、がん患者の遺族が大切な人を喪失した体験を自分の人生として受け入れ、新たな希望をもって人生を歩んでいけるよう、悲しみを分かち合うグリーフケアサロンを定期的に開催します。（拠点病院等、関係機関、県）

## 25 滋賀

滋賀県，滋賀県がん対策推進計画（第4期）〔原案〕，p. 77-80

## 第4章 分野別施策および目標

3 がんとの共生

(1) 相談支援、情報提供

現状と課題

- 滋賀県がん患者団体連絡協議会が主催するがん患者サロンは、10 か所で行っており、また、病院主催のがん患者サロンは2か所で行っております。  
(略)【表 17】がん患者サロン一覧
- オストメイト\*、乳がん、女性がん、声を失った方を対象とした対象のサロンも開催されています。
- 小児がん、AYA 世代、肺がん、男のみ対象のサロンや遺族サロンなどが、NPO 法人淡海かいつぶりセンターを利用して行われています。
- セルフケアグループきらら会が、遺族サロン・グリーフケア講座を中心に、セルフヘルプで、遺族悲嘆の回復をめざし、生きる気力をつけることを目的としたサロンを行っています。
- ピアサポーターとして活動できる相談員は、1 圏域あたり 7.4 人です。(令和 4 年度 (2022 年度) 末)
- 令和 4 年度 (2022 年度) のがん患者サロンは、12 か所で開催しており、ピアサポーターを含めて 727 人が参加していますが、サロンのがん患者の参加者は減少しています。
- 滋賀県内のがん患者サロンは、滋賀の療養情報(冊子)や滋賀のがんポータルサイト「がん情報しが」等で広く情報提供をしています。
- がんと告知された時から、患者および家族の相談場所や活用できる支援について、パンフレットやポータルサイトの活用により、効果的に情報提供できるようにする必要があります。
- 相談支援従事者の質の確保と向上を図る必要があります。
- 患者会など民間団体の支援を継続して行う必要があります。

分野目標

◆ (1) 相談支援・情報提供

分野目標			
○ がん相談支援センター・がん相談窓口の周知が広がり利用が増える			
○ がん相談支援者が適切な研修を受けて質が担保されている			
○ がん患者サロンが開催されてピアサポーターの支援が得られる			
○ 正しいがん情報を入手する環境の整備			
評価指標	現状値目標値 (R5)	目標値 (R11)	出典
がん患者サロンの開催状況			
県がん患者団体連絡協議会主催 サロン	10 か所 (R4)	継続	がん診療連携協議会 相談支援部会

具体的施策

- ◇ 県、がんの指定病院、関係機関、患者団体等は、がん患者サロンの周知を図ります。
- ◇ がん医療従事者、相談支援者、県民は、がん患者サロンの参加を促します。
- ◇ 滋賀県がん患者団体連絡協議会を中心に、がんの指定病院の協力のもと、ピアサポーター養成講座を開催します。
- ◇ 県、医療機関および関係団体は、各がん患者団体が行う相談会や講演会、交流会をがん患者・家族に対して情報提供を行います。

26 京都

第 3 期京都府がん対策推進計画中間案, p. 80

4 分野別施策と個別目標

(3) がんとの共生社会の実現

① 相談支援体制、情報提供体制の充実

Ⅶ. 資料集

ア 個別目標

がん及びがん治療に関連する情報提供体制の強化、患者一人ひとりに寄り添った相談

イ 現状・課題と施策の方向

a 現状

- がん診療連携拠点病院等や患者団体が開設するがん患者サロンでは、がん患者や家族等が同じ立場で心の悩みや体験などを語り合うことができる場を提供しており、定期的に勉強会や交流会を開催しています。
- 京都府がん患者団体連絡協議会では、がん患者支援活動に携わるピア・サポーター養成講座を開催しています。

b 課題

- 患者団体や患者サロンにおける活動を引き続き支援し、養成したピア・サポーターの活動の場を提供することで、がん患者が良質なピア・サポートを受けることができる環境を整備する必要があります。
- 遺族に対するグリーフケアについても取り組んでいく必要があります。

c 施策の方向

(g) 患者団体や患者サロンの活動を支援するために、がん診療連携拠点病院等と連携し、ピア・サポーター養成講座修了者の活用及び地域と連携したグリーフケアを推進します。

6 ロジックモデル及び評価指標一覧

(1) ロジックモデル

(3) がんとの共生社会の実現

C:分野別施策	番号	再掲	アウトプット指標(施策目標)
①相談支援体制、情報提供体制の充実	14		がん診療連携拠点病院等での患者サロン・ピアサポーター養成講座修了者の活用の推進

B:中間アウトカム(個別目標)	番号	再掲	アウトプット指標(施策目標)
がん及びがん治療に関連する情報提供体制の強化、患者一人ひとりに寄り添った相談支援の実施	14		ピアサポートの認知度
			がん相談支援センターの認知度

	番号	再掲	指標	現状値	目標値(令和11(2029)年度)	データソース
①相談支援体制、情報提供体制の充実						
中間アウトカム指標	B14		ピアサポートの認知度	平成30(2018)年度	27.3%	増加 患者体験調査
アウトプット指標	C14		がん診療連携拠点病院等での患者サロン・ピアサポーター養成講座修了者の活用の推進	—	—	25人 健康対策課調べ

27 大阪

大阪府, 第4期大阪府がん対策推進計画 (案), p. 80

## 第4章 大阪府のがん対策の現状と課題

## 5 がん対策を社会全体で進める環境づくり

## (3) がん患者会等との連携

○がん対策基本法には、「国及び地方公共団体は、民間の団体が行うがん患者の支援に関する活動、がん患者の団体が行う情報交換等の活動等を支援するため、情報提供その他の必要な施策を講ずるものとする。」と定められており、がん患者のニーズに合致した施策となるよう、患者会などとの継続的な情報交換、意見交換が必要です。

## 第6章 個別の取組みと目標

## 5 がん対策を社会全体で進める環境づくり

## (3) がん患者会等との連携推進

- 大阪がん患者団体協議会を中心に、がん患者をはじめとする関係者と大阪府におけるがん対策の現状や方向性について、継続的に意見交換に努めます。
- がん患者会や患者サロンなどに関する情報について、療養情報冊子「おおさかがんサポートブック」やホームページ、がん診療拠点病院の相談支援センター等で情報提供を行います。
- がん診療拠点病院における、患者同士の交流・支え合いの場であるがん患者サロンなどの整備について、ピア・サポーター（注36）とともに取り組みます。

## 《第4期大阪府がん対策推進計画におけるモニタリング指標》

	モニタリング指標	現在の状況
3	患者会、患者支援団体及び患者サロンの数 【大阪府調べ】	患者会及び患者支援団体：36 団体 患者サロン：55 病院 【R4（2022）年7月】

## 28 兵庫

パブリックコメント終了

## 29 奈良

パブリックコメント終了

## 30 和歌山

和歌山県，第4次 和歌山県がん対策推進計画（案），p.54-56

## 第3章 分野別施策と個別目標

## 第3節 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

## (1) 相談支援及び情報提供

## ① 相談支援について

（現状・課題）

- がん体験者等が中心となって、民間団体等でもがん患者の支援を行っており、それぞれの地域において患者サロン（がん患者やその家族等、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）等を開設し、正しい知識を身につけたがん体験者であるピア・サポーター等が、がん患者の精神的なサポート等を行っています。患者サロンは、拠点病院や県推進病院内に設置されるとともに、県立図書館や民間病院にも開設されています。

（取り組むべき施策）

- 県は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるように、情報提供などの取組を行います。

**【個別目標】**

がん相談支援センターの認知度及び質を向上させ、精神心理的・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができ、また、患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての県民が、必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができることを目指します。

**31 鳥取**

パブリックコメント開始前

**32 島根**

パブリックコメント終了

**33 岡山**

パブリックコメント終了

**34 広島**

パブリックコメント開始前

**35 山口**

パブリックコメント開始前

**36 徳島**

パブリックコメント終了

**37 香川**

パブリックコメント終了

**38 愛媛**

愛媛県，愛媛県がん対策推進計画，p. 68-72

**Ⅲ がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現**

**1 相談支援及び情報提供**

**【目標】**

○ピアサポート活動の更なる充実

**【現状・課題】**

- 患者やその家族からは、専門家による相談支援に加え、患者の視点や経験を活かした情報提供や、心の悩みや体験を語り合う交流の場が必要との要望があり、県では、これまで、患者や家族同士で支え合うピアサポート体制の整備に取り組んできました。
- 県は、おれんじの会と連携して、ピアサポートの人材育成のため、自らのがん体験を生かして、がん患者、家族の力になりたいと考えている患者とその家族等を対象に、相談ノウハウを修得するためのピアサポーター養成研修を開催し、拠点病院等で定期的な院内ピアサポート活動に取り組んでいます。
- がん患者や家族が、がんの療養生活等で生じる不安を身近な場所で気軽に相談し、様々な分野の情報

をワンストップで入手できる場として、おれんじの会が運営する「がんと向き合う人のための町なかサロン（松山市末広町）」において、ピアサポーターによる相談支援が実施されている他、拠点病院の相談支援センターと連携し、医療や介護、心理面の悩みなど、様々な分野の相談に対応できる多様な専門職の協力が得られる体制を整備しています。

- 拠点病院等では、院内ボランティア等の協力の下、患者と医療従事者が交流する患者サロン、がんカフェ等が開催されています。また、県は、おれんじの会と連携し、拠点病院の患者サロン等に対し、ピアサポーターを派遣しています。

**【取り組むべき対策】**

（関係機関の連携による相談支援体制の充実）

（略）

- 拠点病院等においては、患者と医療従事者が交流する患者サロンが、患者団体及び院内ボランティア等の協力により実施されています。行政及び拠点病院は、患者や家族の気持ちに寄り添うこうした取り組みが継続できるよう支援に努めます。
- 愛媛県がん相談支援推進協議会が中心となって、総合的な相談支援体制のあり方等について検討を進め、愛媛県議会がん対策推進議員連盟が提案する、全市町へのがんサロン設置との関係にも十分留意しながら、県民本位の相談支援体制の更なる充実に努めます。

（ピアサポート活動の更なる充実）

- がん患者やその家族が、がんの療養生活等で生じる不安を身近な場所で気軽に相談し、様々な分野の情報をワンストップで入手できる場として、おれんじの会が運営する「がんと向き合う人のための町なかサロン」が交通の便のよい中心市街地に開設されています。引き続き、ピアサポートに主体的に取り組んできたノウハウの活用に加え、拠点病院の相談支援センターと連携して、医療や介護、心理面の悩みなど様々な分野の相談に対応できる体制を整備し、患者とその家族に対する一層の相談支援の充実に努めます。
- がん患者やその家族の保有する不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者が当事者としての経験を踏まえ相談支援を行うことが求められることから、県では、引き続き、ピアサポートを推進するための研修を実施するなど、がん患者・経験者との協働により、ピアサポートの更なる充実に努めます。

[愛媛県がん対策推進計画ロジックモデル]：相談支援及び情報提供  
関係機関の連携による相談支援体制の充実・質の向上

分野の個別対策	アウトプット指標	データソース
拠点病院等においては、患者と医療従事者が交流する患者サロンが、患者団体及び院内ボランティア等の協力により実施されている。行政及び拠点病院は、患者や家族の気持ちに寄り添うこうした取り組みが継続できるよう支援に努める。	患者サロンを設置する拠点病院・推進病院の割合	連-01
	がんサロンの広報活動を行った拠点病院・推進病院の割合	連-01
	がんサロン・患者会の運営支援を行った拠点病院・推進病院の割合	連-01
愛媛県がん相談支援推進協議会が中心となって、総合的な相談支援体制のあり方等について検討を進め、愛媛県議会がん対策推進議員連盟が提案する、全市町へのがんサロン設置との関係にも十分留意しながら、県民本位の相談支援体制の更なる充実に努める。	県がん相談支援推進協議会の開催数	相-01
行政、拠点病院等、患者団体等の各レベルでどのような情報提供と相談支援が適切か明確にし、医療機関、患者団体、企業等の協力の下、より効果的な体制構築を進める。	協議会や部会に参加し、課題を共有、検討した拠点病院・連携病院の割合	連-01
拠点病院は、相談支援センターにがん対策情報センター等による研修を修了した専任者を複数人配置するとともに、院内及び地域の医療従事者の協力を得て、	拠点病院のがん相談支援センターに配置されている相談員の研修修了者数	現-01

院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの様々な相談に対応する体制を整備するため、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携体制の構築に積極的に取り組む。	ピアサポート活動の場を作った拠点病院・推進病院の割合	連-01
	拠点病院1施設あたりの連携している患者団体の数	現-01

## 39 高知

高知県，第4期高知県がん対策推進計画（案），p. 29-32. 40-42

### 第4章分野別施策

#### 3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援及び情報提供

##### ア 相談支援について

##### (ア) 現状と課題

また、県でも、がん相談センターこうちを設置し、相談支援センター相談員基礎研修等の研修を修了したがん患者家族等が、患者及びその家族のみならず、一般県民からのがんに関わる相談に対応しています。（図表4-3-1）

##### (イ) 取り組む施策

b（中略）県はがん相談支援センターと連携し、がん患者・経験者及び家族との協働を進め、ピアサポートを充実するよう努めます。

##### イ 情報提供について

##### (ア) 現状と課題

（中略）各拠点病院やがん相談センターこうち等にごん患者やその家族同士の交流や話し合いが行えるがんサロンが開設され、がんに関する情報交換の場が広がりつつあります。

指標(中間アウトカム指標)一覧、ロジックモデル

<個別施策>

分野の個別対策	アウトプット指標
がん相談支援を受けることができ、自分に合った正しい情報が得られる	1. 拠点病院等の相談窓口における相談件数 2. がんサロンの開催回数

## 40 福岡

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課，第4期福岡県がん対策推進計画案，p. 33

### 第3章 分野別施策と個別目標

#### 3. がんと共に尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援及び情報提供

##### ①相談支援について

<現状と課題>

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県は、令和4（2022）年度より、がんの基本的な知識及びコミュニケーションスキルに関する研修の実施等を通じて、ピア・サポーターの養成を行っています。
- 患者体験調査によると、「ピアサポートを知っている人」の割合は、福岡県26.5%、全体27.3%となっており、ピアサポーターの養成と共に認知度向上に向けた取り組みが必要です。

<今後の取り組み>

- ピアサポーターの養成に引き続き取り組むとともに、拠点病院等と連携し、患者サロン等の場におけるピアサポーターの活用促進や、相談のアクセシビリティ向上に向けたオンライン開催可能な環境の

整備等、がん患者やその家族等が相談しやすい環境づくりに努めます。

## 41 佐賀

佐賀県，第4次佐賀県がん対策推進計画(案)，p. 23-24

### 第3 分野別施策と個別目標

#### 3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～

##### (1) 相談支援及び情報提供

(現状・課題)

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、ピア・サポーターの養成を推進してきました。
- 2022(令和4)年整備指針改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされ、ピア・サポート活動の質の担保も重要となっています。一方で、ピア・サポートを知っている患者の割合は低く、2018(平成30)年に国立がん研究センターが実施した患者体験調査(以下「患者体験調査」という。)によると、佐賀県33.5%、全体27.5%となっています。

(取り組む施策)

- ・ 出張型がん患者サロン等の実施
- ・ 患者サロン、ピア・サポートに関する情報発信

(個別目標)

- ピア・サポーター養成研修の受講者数を、本計画期間中で延べ60人以上とします

## 42 長崎

パブリックコメント終了

## 43 熊本

熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課，第4次熊本県がん対策推進計画(素案)，p46-47

### 第3章分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援

##### ②がんサロンの普及・定着とピアサポートの充実

【現状と課題】

##### ○がんサロンの活動状況

- ・ 病気に対する不安や悩みを家族や友人などに打ち明けられず、孤立感を抱きながら療養生活を過ごすことは、患者にとって非常に負担があります。同じ経験、想いを共有できるがん患者同士が遠慮なく互いに語り合える場である「がんサロン」は、患者のQOLの向上に有益です。
- ・ 本県では、がんサロンが30か所(令和5年3月末時点)で開催されていますが、多くが熊本市とその近隣地域で開催されています。また参加者の高齢化・固定化によるがんサロン開催の維持継続が難しい、AYA



## Ⅶ. 資料集

世代等若い世代の参加が少ない、オンラインでの開催が難しいがんサロンがある等の課題があります。

- 県内のがんサロン及びがんサロン参加者、医療関係者、行政等で構成される「がんサロンネットワーク熊本」は、がん患者及びその家族、その他支援者を対象に、がんサロン及びピアサポートの理解を深めるための交流会や研修会等を開催しています。

### ○ピアサポートの状況

- 県は、ピアサポーターの増員及びカウンセリングの質の向上のため、ピアサポーター養成研修及びフォローアップ研修を実施しています。
- 県は、がん経験者による傾聴を主体としたピアカウンセリングとして、「おしゃべり相談室」を熊本大学病院、国立病院機構熊本医療センターの2か所で実施しています<sup>21</sup>。患者のQOLの向上のためにも拡充を図っていく必要があり、そのためにもピアサポーターの増員は必要不可欠です。

### 【取り組むべき施策】

#### ○がんサロン活動への支援

- 県、市町村、拠点病院並びにその他医療機関は、「熊本県がん連携サポートセンター」と連携してがんサロンの活動場所の提供、活動の周知、医療情報の提供等、「がんサロンネットワーク熊本」の活動の支援を行います。
- 「がんサロンネットワーク熊本」は、研修会やがん患者の交流会を開催し、がんサロン間の連携の強化を行います。また、県はその取組を支援します。

#### ○ピアサポートの充実・質の向上

- 県は、国の研修内容の見直しを踏まえたピアサポーター養成研修及びフォローアップ研修を引き続き実施します。
- 県は、ピアサポーターの育成や、おしゃべり相談室を開設する病院への支援等を推進します。

### 【個別目標】

指標名	現状値（時点）	目標（時点）
おしゃべり相談室実施施設数	2 施設 (R4 年度)	3 施設 (R11 年度)

## 44 大分

大分県, 大分県がん対策推進計画（第4期）（素案）, p. 42-45

### 第4章 分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

### 【分野別アウトカム】

No.	評価指標	現状	目標値 令和11(2029)年度
32	ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	全国平均以上

#### (1) 情報提供・相談支援

##### 【現状と課題】

- また、患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、ピア・サポーターの養成を推進する必要があります。令和4年に改正されたがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされています。

##### 【施策の方向】

- がん患者やその家族等が集い、心の悩みや体験等を率直に語り合うことで、不安や孤立感の解消につながることから、拠点病院等によるがん患者サロンの開設を支援し、がん患者等によるピアサポート

を充実します。

- また、ピア・サポーターの情報を管理し定期的なフォローアップ等を実施することで、ピア・サポーターの質の向上、活用の促進を目指します。

【各実施主体の取組内容】(略)

【個別施策(アウトプット指標)】(略)

【中間アウトカム】

No.	指標名	現状	目標値 令和11(2029)年度
31202	ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合	32.8%(27.5%) (出典:H30 患者体験調査)	増加かつ全国平均以上

※( )内は全国値

## 45 宮崎

宮崎県, 第4期宮崎県がん対策推進計画(素案), p. 25

### 第4章 分野別施策

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援、情報提供

##### ① 相談支援について

###### 【現状と課題】

- 本県では、各拠点病院等において、定期的に「がんサロン」を開催しており、がん患者やその家族の方々などが、悩みや不安を語り合うことができる場を設けています。

#### 7 第4期宮崎県がん対策推進計画 ロジックモデル・評価指標

個別施策
相談支援、情報提供の推進

中間アウトカム	指標	現状	目標値	データソース
相談支援及び情報提供の充実	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	28.7%(2018年度)	全国平均以上	患者体験調査

## 46 鹿児島

鹿児島県, 鹿児島県がん対策推進計画(案), p. 70-72

### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～

#### (1) 相談支援及び情報提供

##### 【現状と課題】

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県では、ピア・サポーターの養成を行っており、患者サロンや

がん患者等の交流会等を通じたピア・サポートの取組も行われていますが、コロナ禍においては、患者サロンの休止を余儀なくされました。

- がん患者状況等調査によると、ピア・サポートについて知っている患者等の割合は、27.7%と低く、また、患者会やピア・サポートについて、患者等へ情報提供を行っている医療従事者の割合も32.3%と低い状況となっています。また、患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると感じている患者等の割合は27.4%にとどまっています。

**【施策】**

- 引き続き、ピア・サポーターの養成を行い、「がん患者サロン」等のピア・サポーターによる相談体制を整備し、がん患者やがん体験者との協働により相談支援の充実を図ります。

**【個別目標】**

目標項目	現状値	目標値(達成時期)
患者サロンにおいてピア・サポーターを活用している拠点病院の数	4 医療機関 (令 5)	8 医療機関 (令 11)

**47 沖縄**

沖縄県, 第4次沖縄県がん対策推進計画(2024-2029)(案), p. 55-62, p. 72-85

第3章 分野別施策と個別目標

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

ア 現状と課題

①相談支援と情報提供

- がん患者や家族にとって、同じような経験を持つ人と心の悩みや体験等を語り合える場の存在は重要です。県は、琉球大学病院内に「沖縄県地域統括相談支援センター」を設置し、がん体験者の立場からがん患者やその家族を支援できる人材(がんピア・サポーター)を養成し、がん診療を行う医療機関のがん患者サロン等へ派遣し、相談支援や情報提供等を行っています。また、がんピア・サポート相談室を開設し、相談支援経験豊富ながんピア・サポート相談員が対応しています。
- さらに、各拠点病院のがん相談支援センターやがん患者団体等では、がん患者サロンが定期的で開催されており、がん患者やその家族、医療者等が気軽に語り合える場を提供しています。
- しかし、がんピア・サポートやがん診療を行う医療機関におけるがん患者サロンについて知らないという県民も多く、認知度はまだ十分とは言えないことから、引き続き周知に努めるとともに、がんピア・サポーターやがん患者会活動の拡大に取り組む必要があります。

イ 分野目標と施策

- 施策目標3 がん患者やその家族等が、不安や悩みを共有できる場があると感じている

<b>施策1. がんピア・サポートの充実を図る</b>
○県及び沖縄県地域統括相談支援センターは、引き続きがんピア・サポーターを養成し、フォローアップ研修等を通じて、がんピア・サポーターの資質向上に努める。また、がん診療を行う医療機関等と連携し、患者サロン等でのがんピア・サポーターの活動の場拡大を図る。
<b>施策2. がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する</b>
○がん診療を行う医療機関及びがん患者団体は、がん患者サロン等において、沖縄県地域統括相談支援センターに登録するがんピア・サポーターを活用したがん相談を実施するなど、がんピア・サポートを推進する。 ○沖縄県地域統括相談支援センターは、がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等に、がんピア・サポート経験豊富な相談員をアドバイザーとして派遣し、がんピア・サポート活動を支援する。 ○県及び沖縄県地域統括相談支援センターは、がんピア・サポートを推進するため、がん診療を行う医療機関及びがん患者団体の連携協力体制促進のための意見交換会等を実施する。

## ウ指標

目標	指標	現状値(県)	目標値	出典
がんピア・サポートの充実を図る	がんピア・サポーター研修会及びフォローアップ研修会修了者数	19人(養成講座5人+フォローアップ14人)	増加	沖縄県地域統括相談支援センター事業実績報告(R4年度実績)
がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する	がん診療を行う医療機関及びがん患者団体主催がんサロンへの出張がんピア・サポート実施回数	33回(対面22+オンライン11)	増加	沖縄県地域統括相談支援センター事業実績報告(R4年度実績)

ロジックモデル (3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築)

## ①相談支援と情報提供

施策 (C 個別施策)	指標
がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する	がん診療を行う医療機関及びがん患者団体主催がんサロンへの出張がんピア・サポート実施回数